

平成29年度 学校評価報告書(目標設定・○実施結果)

視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導 ①生徒の基礎学力の充実と専門性の向上を目指して教育課程の工夫・改善に取り組む。 ②再編統合を視野に入れた多彩な学習活動の展開を図る。	①主体的・対話的で深い学び(以下「深い学び」)について、研修により理解を深め、実践につなげる。 ②多彩な学習活動の展開の可能性を探る。	①学事班による計画的な研修を通して全教員が「深い学び」についての理解を進めるとともに、生徒による授業評価を活用しながら実践的に取組む。 ②多彩な学習活動について学事・農場班を中心に具体的実践例を研究し、検討を進める。	①全教員が「深い学び」についての理解を深め、効果的に実践できたか。また、生徒による授業評価は前年度より向上したか。 ②導入に向けた具体実践例を示すことができたか。	①夏季休業中に「深い学び」についての伝達講習会、ICTを利用した体験型の授業改善研修会を行った。その後、タブレットPCが県から支給され、ICTを利用した授業改善が進んだ。授業評価は前年度同時期に比べ、7教科において評価が高くなった。特に数学と英語の評価が高くなったことが特筆できる。 ②今年導入した夏期講習参加者は、延べ37名であった。教科ごとの講習や教科横断型の講習は、新校の学習のヒントになった。また、来年度から朝学習を導入することが決定した。	①来年度も「目標を示す」「振り返りの時間を設けましょう」、「深い学びとなる時間、工夫をしよう」という目標を掲げ、授業改善を進める。また、教具・教材については、職員間で学び合え、利用し易い環境作りを目指す。さらに、授業評価を活用し客観的なデータより授業改善を進めていくことを全教員で認識していく。 ②夏期講習や朝学習の充実を目指し、教材の準備や興味ある講座の設定など学習の機会を数多く設ける。	・生徒による授業評価が高まっていることから、「深い学び」の理解を深め、実践するという目標設定と組織的な授業改善の取り組みは適切であったと考える。特に英語、数学の評価が高くなったことは、基礎学力の充実等を目指した工夫・改善が進んでいる証左と思われる。 ・教員集団の「深い学び」についての理解と実践の結果が、多教科にわたる授業評価の向上に結実したということは大きな成果であり、更なる深化を期待するところだ。 ・授業評価が昨年度に比べ7教科において評価が高くなったという結果に、先生方の日頃のたゆまぬ努力の成果と思われます。次期学習指導要領に向けて「深い学びとなる時間、工夫をしよう」という目標に向け授業改善を進めている部分や朝学習の導入を決定したことなども高く評価できると思います。 ・授業評価アンケート集計内容は参考になっている。改善策を要する項目も検討できると思います。 ・授業評価が向上したのは良いと思います。	①「深い学び」に到達するような様々な取り組みの結果、授業改善は着実に進んでおりそれが授業評価に現れている。 ②多彩な学習活動のひとつとして朝学習を導入できたことには満足するのではなく、内容のある効果的な学習活動にしていく必要がある。	①来年度も引き続き授業改善を進めるため、所掌グループのグループリーダーのリーダーシップの元、グループ員の研修参加を促進させる。 ②学年組織の再構築によって、役割分担を明確にし、学年主導で運用できるよう教材作成マニュアルの提示を行う。
2	生徒 指導・ 支援 ①生徒の人格を尊重するとともに、基本的な生活習慣や集団生活のルールが身に付くよう取り組む。 ②ホームルーム活動、農業クラブ活動など、生徒の自主的な活動を推進し、活性化を図ることにより、責任感や連帯感を醸成し、達成感を得られるようにする。	①-I 支援教育についての実践的理解を深める。 ①-II 基本的な生活習慣が身に付くようにする。 ②自主的活動の機会を確保するとともに実践の評価をする。	①-I 必要に応じてケース会議を開催し、スクールカウンセラーを有効活用するなどして、情報と支援の方策を共有する。 ①-II 指導の意義を生徒に確実に浸透させ、日常の指導を徹底する。 ②活動の機会を数多く用意する。	①-I 会議等で得られた情報を活用して有効な支援が行われたか。 ①-II 指導上の案件等の数が昨年度より減少したか。 ②活動の機会が十分に確保できたか。	①-I ケース会議を通じて、生徒の支援ができた結果、無事卒業できる運びとなった。 ①-II 指導上の案件等は、昨年度の3件から7件と微増した。 ②生徒を主体とした行事運営に努め、事後の反省会などにより改善点の検討を行った。2学年では、生徒会行事や修学旅行を経験する中で、学年としての仲間意識が高められた。	①-I 困難を抱えた生徒や支援を必要としている生徒をケース会議により支援方針を立てて、関係機関の協力を得ながら進めていきたい。 ①-II 共通理解を高め、日頃から生徒の支援を学校全体で進めていきたい。 ②教員のホームルーム指導力の強化及び農業クラブ活動の活性化を推進する具体的方策を検討する。	・ケース会議の具体的な成果は、大いに評価できる。指導上の案件が微増であったが、長期的な推移も見ていく必要があるのではないか。多彩な農業クラブの活動は、学校生活を充実させ、人間的な成長に役立っているものと思われる。 ・教員集団が情報を共有し、様々な状況を想定しつつ意見交換や対応策を講じることは、すでに取り組まれていることだが、多くは一朝一夕で解決とはいかないのが常であり、息長く根気良く取り組むことに尽きると思われる。 ・生徒への支援ができ、無事卒業できる運びとなったとのこと。スクールカウンセラーの活用やケース会議による支援が有効に作用したのではないかと考えられます。また、ホームルームの指導力の強化や農業クラブ活動の活性化の推進など今後が楽しみです。 ・教員によるホームルームの活用と、それに伴う改善策を指導する。生徒が抱えている問題を早く知り、改善・解決を進める。	①ケース会議開催回数の伸びより支援によって卒業させることができたことが大きな成果となった。 ②学校行事運営やクラス運営に困難さを訴える教員がおり、個々の能力の更なる向上を目指す方策をとる必要がある。	①効果的な支援をするためSC及びSSWを含めチーム連携体制を強化していく。 ②ホームルーム運営に関する研修会の設定と実施を目指す。
3	進路 指導・ 支援 ・正しい職業観、勤労観を身に付け、希望進路を実現し、自らのキャリア発達を意識できるように進路指導の充実を図りつつ、社会に貢献で	I 進路に応じたガイダンスをよりいっそう充実する。 II 希望進路を早期に確定させ、進路希望に応じたきめ	I 将来を見通した上で3年間のキャリアプランを作成し、教科指導及び支援の充実を図る。 II インターン	I 従来のキャリア教育実践プログラムに改善を加えることができたか。 II-i 2年修	I 育成する生徒像を「農・食を通し、夢を実現させ、未来を共に生きていく生徒」と明確化し、そのために必要なキャリア教育実践プログラムの改善を加えることができた。 II-i 2年生3学期の時点で94%の生徒が進	I プログラムの改善は進んだものの実践するための内容の周知と職員の意識向上を図っていく必要がある。 II-i 進路希望先未定の生徒に対して効果的な指導を実施していく。 II-ii 意義ある教育活動	・育成する生徒像の明確化は、対外的にも積極的にアピールしていくと良いと思う。職業体験の充実は、進路決定に大いに役立っていると思われる。県の重点施策で雇用を使った企業的経営体育成を掲げている。施策の推進状況にあわせて、教育機関との情報共有に努めていく必要があると思う。 ・色々な取り組みに敬意を表しますが、状況に加えて農・商統合後の就職指導・進学指導も視野に	I 育成する生徒像の明確化とキャリア教育実践プログラムの改善は、評価をいただいた。更に指摘いただいた統合後の	I 改善したプログラムの職員への周知により組織的な取り組みに発展させていく。

		きる産業人を育成する。	細かな指導を行う。	シップ・農業体験などを充実させ、進路先の早期決定に資する。	了時には進路希望が具体的に決定しているか。 II-ii 体験者数が前年度より増加したか。 II-iii 年度内の進路決定率が前年同時期より高かったか。	路決定している。 II-ii 農業体験 6 名、インターンシップ 66 名、農業法人インターンシップ 13 名が参加し、昨年度を上回った。特筆すべきは 3 名の生徒が農業生産法人に就職することができたことである。 II-iii 今年度も就職を希望した生徒の内定率は 100% だったが、一般受験による進学希望者が若干名未決定である。	であるので多くの生徒に体験してもらえよう、学年団の協力を得ながら進めていく。農業生産法人インターンシップも軌道に乗り始めたので、マニュアルの整備を進めていきたい。 II-iii 就職指導に関しては、きめ細やかな指導を継続し、進学指導に関しては特別講習等により学力アップを図るような方策を検討する。	入れながら、次年度以降検討も必要になってくると思います。 ・94%の生徒が進路を決定しており、就職率は100%という非常に高い数値が出ています。ここが平塚農業高校の強みとされます。育成する生徒像「農・食を通し、夢を実現させ、未来を共に生きていく生徒」に向けて今後もたゆまぬ歩みをお願いいたします。 ・農業高校ですので、進路指導は、農業関連を中心にすすめて欲しい。就職のための農業関連企業の働きかけ、紹介を図る。学校での農業実習でなく、農家で農業実習を検討して欲しい。 ・進路が2年3学期に決定しているのは良い。 ・インターンシップの参加者が増えたのは良いと思います。	新校を見据えたキャリアプランを作成していく。 II 就職による就農及び農業自営者が4名出たことは、農業法人インターンシップの取り組みの成果となる。	II 農業生産法人インターンシップの取り組みを本校の特色として位置づけ、指導者の育成を図っていく。
4	地域等との協働	・地域や産業界と連携・協働し、農業高校の特色を生かした取組を通じて活力ある学校づくりを推進する。	I 農業高校、農業教育の特色を生かした地域との連携を推進する。 II 平塚商業高校との連携を深める。	I 外部の方の学校での体験活動、出前授業、地域の産業界との連携（商品開発など）や、外部講師を活用した講座を行う。 II 連携可能な部活動や学校行事で連携を進める。	I 実施回数が昨年度より増加したか。 II 生徒の満足度を高めるような連携活動を実施できたか。	I 農業3学科での講演会や洋菓子製造の実技指導など実施したが、昨年度並みの回数に終わった。 II 平塚商業高校の生徒会本部との交流及びソフトテニス部の合同練習が実現できた。	I 地域や産業界と連携・協働し、農業高校の特色を生かした取組を通じて活力ある学校づくりを推進できるよう教員の意識改革を進める。 II 交流等の実現のみで満足度を高められるレベルまで達していないので、学校行事での連携が可能か検討していきたい。	・地域の産業界にとって、農業高校との連携は魅力的なのではないかと思われる。既に様々な取り組みがなされていると思われるが、産業界との連携は意識して取り組まれると良いと思う。 ・年間を通して、平塚農業高校の、又平塚商業高校の地域における活躍や協力を何度か見聞きしており、地域住民の理解はかなり深められていると確信できます。 ・地域の小中学校を対象として体験活動をしたらよいと思います。 ・農業高校として特色を生かした地域等への連携・提携を進めて欲しい。農業の理解を得るための、農場を、活用した地域との連携を、検討して欲しい。 ・間近に迫った平塚商業高校との連携について今後も推進していただきたい。学校行事での連携が可能か検討することに期待します。	I 指摘があったとおり地域産業の振興を目指すことを念頭に、職員の意識付けを徹底して行う。 II 連携を進めることができなかったの、次年度は積極的に交流を進める。	I 職員の共通認識として、農業クラブ活動の活性化方策を計画・実行していく。 II 生徒会グループによる生徒や部活動同士の交流機会を設ける企画・立案してもらう。
5	学校管理 学校運営	①公務員としての自覚を持ち、常に課題を把握しながら解決を図り、事故・不祥事のない、地域から信頼される学校づくりに努める。 ②生徒が安心してすごせる安全な学校を作る。 ③再編・統合に向け校内及び統合校との連携や協議を推進し、平成32年度の円滑な開校を目指すとともに農業と商業が融合した特色ある専門高校の実現を図る。	①-I 事故・不祥事の発生をなくす。 ①-II 地域からの要望については内容を確認し、すぐに対応する。 ③平塚商業高校と積極的に協議を行い、6次産業化等に対応した新校設置計画（素案）を完成させる。	①-I 管理職は事故不祥事ゼロを目指し環境づくりに努め、職員は事故防止研修を企画し自己啓発を促す。 ①-II 要望内容に応じた担当に速やかに伝達し、対応する。また、情報は共有化する。 ③組織体制の構築をするともに作業工程表を作成し、計画通り円滑に作業を進める。	①-I 研修内容の満足度は8割以上で、事故・不祥事の発生は無かったか。 ①-II 対応が必要とされる要望はすべて対応できたか。 ③設置基本計画案を完成させたことができたか。	①-I 管理職主催の研修「職場環境を整える」「ハラスメントのない学校づくり」「私費会計の扱い方」を実施し、満足度は高かった。 職員による研修会は毎月必ず実施した。 ①-II 農場内の残土問題、放置自転車や自転車の乗車マナーに関して速やかに対応することができた。 ③作業工程表は完成したものの工程表通りに進まず、設置基本計画案の完成が3月にできず、作業の遅れを認めざるを得ない。	①-I 職員研修の重要性は感じつつ、研修時間の確保が課題である。会議の精選や時間設定でやり繰りしていきたい。 ①-II 対応以上に事前指導や予防に力点を置くことを考える。要望が出た場合スピーディーに対応することを心掛ける。 ③両校の協議を重視しながら、10月の県議会報告や教育委員会への付議に間に合わせるよう会議の設定に努力していきたい。	・不祥事防止等の研修を毎月実施し公務員としての立場・役割について研修を深めたことに高く評価します。 ・昨今、取り上げられている教員の労働時間の問題（昔からあった）や、少子化と財政難等により教員数は増えないということが、改革と再編統合にどう影響を及ぼすか、いささか気になることです。 ・教員の本務以外に、再編・統合に向けての作業が加わり、かなりの労力が費やされていることに同情を禁じ得ないが、英知を結集してより良い方向へ進んでいけるよう願っております。 ・再編統合に向けた協議内容の共有を今後もお願いしたいと思います。 ・新校に向けた準備を生徒・保護者の不安にならないよう進めてもらいたい。 ・2020年度より新しく大学入学共通テストが導入されること、又2022年度より新学習指導要領が実施されることになるようであるが、本校においては農・商の再編・統合の時期と重なる恐れもあるので、これらへの対応について早めの検討も必要かと思われる。	①管理職をはじめ職員一丸となって不祥事防止に取り組めた。 ③再編・統合に関して学校関係者は、今後の新校に対して大きな期待を寄せていることが実感できた。地域にとって必要とされる学校となるよう鋭意努力していく。	①今後も引き続き研修の実施と公務員としての立場・役割そして使命を自覚できるよう努める。 ③目指す学校像と地域のニーズ、地域産業の担い手育成の使命を全うすることを職員全員で再認識していく場を設けるとともに、平塚商業高校との情報共有を図っていく。